

日 本 家 政 学 会
被 服 構 成 学 部 会 誌

第 43 号

令和 4 年 3 月

目 次

ごあいさつ	1
次期部会長あいさつ	2
令和3年度 被服構成学協会 総会	3
令和3年度夏期セミナー	
プログラム	4
基調講演1 「映像メディアを活かすために－光を記録する－」	5
基調講演2 「プロモーションビデオの制作現場から」	6
会員報告 「授業や教材作成に使える簡単アプリケーション」	7
「デジタル教材作成に用いる便利なアイテム」	7
「ミシン縫い撮影にアクションクランプ」	7
夏期セミナーに参加して	8
令和3年度 被服構成学協会公開研究例会報告	9
令和3年度 情報交換会	11
若手研究者研究紹介	
「被服製作の教育的意義」	12
第21回 全国中学生創造ものづくり教育フェア 報告	14
令和3年度 研究動向（修士論文テーマ、科学研究費補助金研究課題）	15
会務報告	16
令和2年度 被服構成学協会 収支計算書	18
貸借対照表・監査報告書	19
令和3年度 被服構成学協会 収支予算書	20
お知らせ	21
被服構成学協会 規約	22
被服構成学協会 申し合わせ	24
令和2・3年度役員 令和4・5年度役員	25
被服構成学協会入会申込書および変更届，退会届	26

ごあいさつ

一般社団法人 日本家政学会被服構成学部会
部会長 森下 あおい（滋賀県立大学）

日ごろより、部会の活動にご協力をいただいている皆様にこの場を通じて深くお礼申し上げます。

この2年間は、世界的な規模で新型コロナウイルスによる感染症が広がり、私たちを取り巻く社会と生活はこれまでに経験のないものになりました。従来は対面での行事があたりまえでしたが、感染予防の為にできなくなりました。多くの部会員の方々は授業対応で多忙な日々が続き、運営をどうすべきか当初は大変心配しました。

そのような状況のなかで、今期の部会活動のスタートになったのが、令和2年の秋に行ったオンライン形式での情報交換会でした。本部会では実習を担当されている先生が多く、遠隔授業による製作の授業は、まさに喫緊の検討事項でした。そこで前期に演習や実習を遠隔で取り組まれた先生方が、ご自身の授業内容をいち早く報告してくださいました。それらはこれまでの経験の上にたった貴重な実践内容であり、今、起こっている目の前の事態に対して、多様な現場でどのようにとらえるのか、またそこにどんな課題があるのかを、具体的に示して下さいました。皆がそれを共有することができました。そして画面を通して少しでも顔を合わせて話しをすることで、次に向かう良い機会をつくることができるのではないかと、感じるきっかけになりました。

こうしてオンラインによる企画が検討され、令和2年度の公開研究例会では、海外在住の講師による立体裁断の師範や参加者に実際に体験できるパターンの演習が、また令和3年度の夏期セミナーでは、田中早苗実行委員長のもとで、衣生活教育における映像メディアの活かし方や、扱いやすいデジタル教材作成など、その教育利用と成果を理解するセミナーが、家庭科教育に携わる一般の方にも参加していただきながら実施されました。これらの取り組みは、新しいテーマ性であっただけでなく、受講する側にとっても開催地や時間によって、参加し難かった物理的な制約が少なくなるなど、オンラインによる良い点も見出せました。

この期間の取り組みができたのは、企画を丁寧に検討し、当日までの細かな準備に快く時間を割いていただいた先生方のご尽力によるものと、あらためて感謝をお伝えしたいと思います。

部会が後援している「全国中学生創造ものづくり教育フェア」は、令和2年度は残念ながら中止でしたが、令和3年度は、長野県で「豊かな生活を創るアイデアバック」コンクールが行われました。薩本弥生先生が審査委員長として現地で審査され、被服構成学部会賞と奨励賞を授与するとともに、生徒の皆さんにはオンラインによる講評をされました。若い世代が被服を学び興味を高めるその過程にこの部会が協力できる意義を感じました。

また大塚美智子元部会長を中心に、部会の先生方によって刊行された「日本人成人の人体計測データブック 2014-2016」は、現在も企業をはじめとして問い合わせと入手の要望があり、このことは如何にこのデータが貴重なものであるかが示されています。なおデータブックの収入は部会へと寄付されています。

誰もが戸惑いながら過ごしていた非日常も、それが現実の日常に移り変わっていく、今はその最中にあるのかも知れません。今後、遠隔と対面によって活動が行われることも可能になると、これまで以上に被服構成学部会の教育や研究を多くの方に知っていただくことができるのではないかと思います。

令和4年度からは、田中早苗部会長のもとで新たな部会体制が始まります。部会員の皆様にとりまして新年度が良い年になりますように祈念しますとともに、今後も部会の活動へのご支援とご協力賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

次期部会長あいさつ

一般社団法人 日本家政学会被服構成学部会

次期部会長 田中 早苗（東京家政大学）

桜前線が北上し、部会員の皆様におかれましては新年度を迎えるご準備にお忙しいところと拝察いたします。部会活動のオンライン化を推し進められた森下あおい部会長の後を引き継ぎ、令和4年・5年度の部会長を仰せつかることになりました。次期副部会長の村上かおり先生、丸田直美先生、石垣理子先生をはじめ、次期運営委員をお引き受け下さった先生方のご協力のもと、伝統ある被服構成学部会の運営に最善を尽くして参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和4,5年度の運営委員は、令和2,3年度から継続される先生方が12名、ふたたび委員を務めて下さる先生方が4名、そして新しく委員をお務め下さる先生方が4名です。ご承知のように、年々部会員が減少傾向にありますので‘運営委員の任期はできるだけ2期4年間とし、その交代は半数ずつ交互に行うことが望ましい’という申し合わせを遂行することが厳しくなっておりますが、被服構成学の研究領域と被服教育を次世代に繋いで行くことが部会の使命と心得、若手の方々が活躍しやすい体制を目指して参りたいと思います。

これまで本部会は一泊二日の夏期セミナーと年度末の研究例会を慣行してまいりました。しかし、令和2年4月の緊急事態宣言発出の後、オンライン授業は元より研修会や会議のリモート開催が日常となりました。令和2年は家政学会の年次大会も中止となりましたが、森下部会長は6月に第一回の運営委員会をいち早くリモートで開催し、9月には企画の薩本委員、渡邊委員、滝澤委員を中心に「オンラインでの実習授業の取り組みに関する情報交換会」を開催、オンライン授業ですぐに活かせるスキルを紹介しました。また、2月の研究例会「ヴィオネから学ぶ多様化する社会でのファッションのあり方」ではオンラインの利点を活かしてドイツからリアルタイムでの実技指導を実現させ、ジェンダーに対する価値観の広がるご講演をいただきました。コロナ禍で海外へ行くことが難しくなりましたがインターネットで繋がる現在、世界は近く感じられます。

あらゆる領域のデジタル化・オンライン化は私たちに利便性をもたらした一方、仕事の省力化に結びついていないのか、むしろ煩雑な情報処理作業が増えて専門分野の研究や研修に手が回らない、と感じているのは私だけではないと思います。このような状況において、次期部会活動は次のように進めて参りたいと思います。

これまで運営委員が交代する年度には、新しい運営委員が就任する前に次年度の夏期セミナーを企画しなくてはなりません。これまで実行委員長を歴任された先生方もたいへんご苦勞されたことと思います。定期的に、次年度の活動を企画するのは年度末の忙しい時期と重なり、さらに今後しばらく続くコロナ禍によって新たな校務が発生するとともに柔軟な対応が求められます。このようなことを鑑みまして、令和4年度の夏期セミナーと研究例会の企画は次期運営委員が発足した後に開始することにいたしました。

次年度の研修会もオンラインでの開催となることが予測されますが、新しい運営委員のもとで情勢を捉えた研修会を企画して参りたいと考えます。部会員の皆様のご支援とご協力を重ねてお願い申し上げます。

令和３年度 被服構成学部会 総会

日時：令和３年５月３０日（日）１２：４０～１３：１０（オンライン形式）

令和３年度被服構成学部会総会は、オンライン形式で行った。

総会次第

１．議 事

- （１）令和２年事業報告
- （２）令和２年度会計報告
 - ① 令和２年度収支決算報告
 - ② 令和２年度貸借対照表
- （３）令和２年度会計監査報告
- （４）令和３年度事業計画（案）
- （５）令和３年度夏期セミナー（案）
- （６）令和３年度予算案

２．報 告 事 項

- （１）部会員数の報告
- （２）その他

上記の議事について審議し、承認された。

令和3年度 被服構成学部会公開夏期セミナー

テーマ：衣生活教育に活かすビデオコンテンツ

日 程：令和3年8月27日（金）13:00～

開催方法：Zoom によるライブ配信

開 催 校：東京家政大学（東京都板橋区加賀 1-18-1）

12:30～	Zoom開始
13:00～13:10	開会の辞
13:10～14:30	<レクチュア1> 「映像メディアを活かすために」 東京家政大学・大学院 教授 兼古 昭彦 氏
14:30～15:40	休憩
14:40～15:20	<ショートスピーチ> わたしのおすすめツール 1.「授業や教材作成に使える簡単アプリケーション」 京都女子大学 渡邊 敬子 氏 2.「デジタル教材作成に用いる便利なアイテム」 武庫川女子大学 末弘 由佳理 氏 3.「ミシン縫い撮影にアクションクランプ」 東京家政大学 田中 早苗 氏
15:20～15:30	休憩
15:30～16:30	<レクチュア2> 「プロモーションビデオの制作現場から」 東京家政大学Web戦略室次長 尾崎 寿美子 氏

大学の映像メディア関連授業課題作品では、学生のスキルはさまざまであるため、一から学ぶこととし、初期の段階で光をみる、光の反射を意識して記録し、影そのものを撮る、光と影とをセットで感じる課題としており、コロナ禍において、在宅でも取り組める成果物、撮影機材はスマートフォンを使用している。授業の一例として、透過光においては、自分で意図的に作ることもあるが、現象として光をとらえる。単純にコップに水を入れ、光を撮影するなどである。大きなものではなく手元でできるもの、学生が学校に来なくてもできるものを被写体とし、コップにサランラップを入れ、上から撮ると輝く金色ようになる。

写真が連続的に撮られることが動画であり、動画は連続写真であることを理解する課題、齎撮りをする課題をこなすことで時間軸が感じられる。写真のもつ時間軸、ジョイナーフォト課題、全ての方向への展開、必要な枚数を撮影する。物語性を感じない抽象的な表情を取り組む課題としては、プロジェクションマッピングを課している。大きな城やビルにうつすものが想像されるが、小さなものへのプロジェクションマップ、手の届く範囲のバレーボール、スカートへの投影である。卒業制作でコスチュームを作ってメディアアートを作る学生が増えてきている。

映像の作り方には2種あり、省力と作り込みである。前者は、迅速、ライブ配信や頻繁な更新への対応、作り手の負担を増やさない、結果として継続的な取り組みにつながる。後者は、よりよい教材・資料の作成、アーカイブ化するコンテンツであり、短期的には作り手の負担は増すが、数年間は使えることを考えると年単位では省力化にもつながる。作り込みの方法では、環境光設定、作り始める前に部屋の光をみる、足す明かりはどうか（照明）、撮影機材、スマートフォンでいいのか、クオリティを上げる良い機材にするのか、セッティングはかけるのか置くのか、つるすのかなどであり、本来持っている色をしっかりと仕上げるのがポイントである。

次に、光の作り方について実演がなされた。キー・フィル・リアライトの3つがある。メインの明かりをつけ、これを基準に光を足す。後ろから当てる、「リアライト」で輪郭を明確に出す。ボリューム感を撮るなら、斜めから当てる「フィルライト」を片方から、客観的に撮るなら左右から偏りなくなど、目的によって変わる。まずは標準的な当て方から展開する。また、本レクチャアのシステム図は、ズーム＋仮想カメラOBS studioであり、仮想カメラを使うことで複数のカメラを提示したり、本人が登場したり等色々な組み合わせで内容に応じて、人の位置を動かしたりすることが可能となる。このことにより見る側に対するメリハリもつく。

COVID-19感染症拡大の影響下、学校教育における遠隔授業、ICT化が急加速している真っ只中である昨今、授業運営のための撮影機会が格段に増し、自身での制作体験から映像の美しさや構成についても技術や工夫が必要であることを痛感している。ご講演中に、「(完成度の高くない動画教材について)学生は状況を分かってくれてはいるが、いつまでも同じではいけない」という内容をお話になった。遠隔授業2年目を迎えた学校教育において、今後はブラッシュアップすることが求められているとの認識を頂けた貴重なお言葉であった。



— 5 —

「プロモーションビデオの制作現場から」

東京家政大学 Web 戦略室次長 尾崎 寿美子 氏

今回のご講演では、魅力あるプロモーションビデオを作るための考え方と情報整理の方法をご紹介いただいた。講師の尾崎氏は、これまで企業でブランディング・広報・プロモーション・マーケティングに従事され、そのご経験から効果的なプロモーションビデオの作り方について実際に制作された動画をもとに、動画の制作方法を学ばせていただくとともに大学の広報活動の変化と方法についても考える機会となった。

東京家政大学では、2020年4月にWeb戦略室が設立され、閲覧者のニーズに合わせた学園ホームページ全体の企画・運営が行われている。正確な事実に基づく様々な情報発信と統制のとれた表現・デザインによる学園の良いイメージ創りと価値の向上を目指し、①閲覧者の動向分析とそれに基づくホームページの維持改善、②ホームページの公開基準に基づく内容精査と必要に応じた通告および記事の削除、③ホームページのガイドラインの策定および周知並びに各部署での作成指導研修および相談など、現代のWebによる広報戦略にあった専門部署が学内に設置され、Webの動画コンテンツ強化の一環として学科の魅力紹介動画が制作された。

魅力的なプロモーションビデオを作るためには、誰に向けたものか、特にCMのように短い動画制作には項目を絞ることが大切であり、表現案や演出 (How to say) を考える前に、まずは何を言いたい (What to say) を決めることが大切であることを学んだ。

この「What to say」を整理するために使用されるフォーム「ブリーフシート」は、メッセージ内容を整理するための1つの考え方であり、一般的によく使われる項目として、次の6つが挙げられた。①オブジェクティブ、②ターゲット、③コンシューマー・インサイト、④キーメッセージ、⑤Reason Why、⑥トーン・アンド・マナーの6つである。これらは全て必要というわけではなく、逆にもっと詳しく定義される場合があり、企業のメソッドを例に分かりやすく解説いただいた。

つまり、①プロモーションビデオを作る目的、どうして作るのかという理由、②誰にメッセージを伝えたいのか、③ターゲットとする人たちの気持ち、気づき、心を動かすポイント、④ターゲットに一番伝えたいメッセージ、⑤キーメッセージの理由、根拠、⑥動画全体で表現したいメッセージ・雰囲気・世界観、これらを伝えるために情報整理に使用されるのが「ブリーフシート」となる。

その視点で拝見したプロモーションビデオは、学科の魅力を伝えるため、美術全般に興味のある受験生に対し、美術が好きで興味があるけど専門的な勉強をしたことがないし、どの分野が自分に向いているかわからないと考えているターゲットに「美術を幅広く学べるから、自分の可能性を最大限に上げられる」ということがメッセージとして伝わる動画になっていた。機能的価値 (Functional Benefit) として「美術を幅広く学べる」だけでなく、情緒的価値 (Emotional Benefit) として「自分の可能性を上げられる」を入れることでターゲットの共感を得られることをご教授いただいた。さらに、あたたかく、楽しい雰囲気の中で学ぶことができ、専門的な勉強をしていなくても美術を基礎から学べ、自分の専攻を後から決められることや、教員と学生の距離が近くアットホームな雰囲気も表現された動画であった。

今回のご講演では、ただ一方的に伝えるだけの授業動画ではなく学んで欲しい内容がより伝わる動画作成の重要性和その作成ポイントを学んだ。これまで作成した動画を見直し、改善する機会をいただいたご講演であった。

(記録: 水嶋 丸美)

会員報告

授業や教材作成に使える簡単アプリケーション

京都女子大学 渡邊 敬子 氏

遠隔授業でも簡単に人体計測の基準点について、骨格標本のように説明ができる「ヒューマンアナトミー」のアプリケーションの特徴についてご講演頂いた。このアプリケーションを用いることで、“骨格”や“筋”の詳細な特徴を様々な角度から拡大し、PCの画面上に提示することができる。また不随する機能を取り入れることで、より一層効率よく、骨格標本について説明ができることをご紹介頂いた。次に、写真から動画まで、編集の経験が無くても、直感で操作できる簡単な動画作成ソフト「Wondershare Filmora」の録画機能の使い方と mp4 への変換方法についてご説明頂いた。さらに、録画した音声の文字に自動で記録し、台本や原稿の作成ができる携帯電話も使用可能な音声入力ソフト「Gbord」と「Google documents」について具体的にお話頂いた。特に音声入力作業を手動でしなくても、文字が起こせることは大変便利な機能であるとお話くださった。誤字脱字がある場合も、前後の文章から自動で修正できる機能が備わっているなど教えて頂いた。今回ご紹介頂いたアプリケーションには、どれも素晴らしい機能が備わっていることを知り、その使い方を丁寧に分かりやすく教えて頂いた講演であった。

デジタル教材作成に用いる便利なアイテム

武庫川女子大学 末弘 由佳理 氏

被服教育のデジタル教材の作成として、これまでに被服構成学実習における製図・基礎縫い・部分縫いなどの縫製技術についてご講演頂いた。今回はデジタル教材として適している布地や糸の色選びの要点についてご紹介頂いた。カメラを通して裏と表の色の違いが鮮明な布地を教材に用いることで、例えば、スカート

やワンピースの教材を作成する際に、ダーツの倒す方向や布の柄合わせ、また、見返しの接着芯を貼る位置など観察しやすくなることなどを教えて頂いた。使用する布地と糸の色の組合せのポイントとして、布地が黒の場合には糸は白、布地が白の場合には糸は黒などを用いるなど、具体的な工夫を詳細にご説明頂いた。次に、縫製項目の順番ごとに学生に提示する見本画像の提示方法についてご紹介頂いた。さらに、illustratorと画像や動画などを融合した教材の紹介や、その教材のデータ管理方法として、Google ドライブのショートカット機能を使いデスクトップに作成すると利便性が増すなど、具体的な作成方法、及び、利用方法についてもご紹介頂いた講演であった。

ミシン縫い撮影にアクションクランプ

東京家政大学 田中 早苗 氏

被服製作実習の各工程を縫製者の目線である「アイレベル」を中心に撮影する方法についてご講演頂いた。従来、撮影時に三脚を使用していたが、アイレベルに適したカメラの固定位置の選定に悩まされていた。そこで今回は、水平方向や垂直方向の撮影も効率よく行えるカメラを支えるアーム(米JOBY社製アクションクランプ)の使用方法について3種類(ロッキングアーム、ゴリラポッドアーム、サクシオンカップ)をご紹介頂いた。特に、ゴリラポッドアーム(台に取付ける工具をクランプと呼び、このクランプの部分に曲げられる特性を持つゴリラポッドを組合せたもの)について詳細に特徴をご紹介頂いた。また、家庭用ミシンと職業用ミシンの縫製時の撮影について、最適なクランプの設置位置を教えて頂いた。アクションクランプにゴリラポッドアームを取付けた方法であれば、アイレベルで撮影が可能になること、また家庭用ミシンには、延長のポールを使用した上でゴリラポッドアームを使用の方が最適であるなど、撮影の工夫に関わる事例をご紹介頂いた。

(記録: 小野寺 美和)

夏期セミナーに参加して

神戸女子大学 十一 玲子

2021年8月23日に、開催校の東京家政大学によるオンラインでの公開夏期セミナー「衣生活教育に活かすビデオコンテンツ」に参加しました。例年は1泊2日の日程で講演・見学会・懇親会などが催されています。しかし、今回は新型コロナウイルス感染症が拡大する状況下に、緊急事態宣言の時期も重なり、Zoomによるライブ配信となりました。2020年の春以来、大学もオンライン授業やリモートワークを実践することとなり、様変わりしてきました。

まず基調講演1では、「映像メディアを活かすために－光を記録する－」と題して、学部生の授業課題を例に挙げ、映像メディアをどのように学修しているのかということ、講演していただきました。版画作品の紹介、また多種の機材やロボットなどを使用し制作された動画を拝見しました。学生が在宅で実習が行なえるように作られた映像ばかりで、私は、画像・映像の持つ美しさや神秘性、おもしろさなどに興味を持ち、引き込まれていきました。急遽、オンラインに変更せざるをえない状況の場合に、教員の負担を増やさず、より良い教材作りや資料作成を可能にする方法、また実際の撮影風景などを見せていただき、明るさや色、露出などを最適の状態で撮影することの重要性についても教えていただきました。

次に、昨年9月にオンラインで開催された情報交換会において、ICT(Information and Communication Technology(情報通信技術))に精通された部会員の先生方3名による「わたしのおすすめツール」という共通テーマでのショートスピーチがありました。1つ目は「授業や教材作成に使える簡単アプリケーション」、2つ目は「デジタル教材作成に用いる便利なアイテム」、3つ目は「ミシン縫い撮影にアクションクランプ」とそれぞれ題され、先生方の授業・研究などの体験談を交えたお話でした。オンラインでの実習における教材選び、課題提出の方法で工夫されていることや撮影時のご苦労の話、さらに動画はよくわかるが音声だけでなくキャプションをいれることにより、学生が理解しやすくなるということでした。ピンチはチャンスと捉え、様々な情報を共有し、効率化を図ることが必要であることにも気づきました。

最後の基調講演2では、「プロモーションビデオの制作現場から」ということで、学科の魅力紹介ビデオを視聴しながら、プロモーションビデオをつくるための考え方、情報整理の方法などを話していただきました。動画では何を言いたいのか、誰にどのように伝えたいかなどについて、シンプルに説明していただき、キーメッセージ全体を見たときにわかりやすく構成され、伝えることが重要なポイントであると理解しました。

これから先もコロナ禍で、オンライン授業の準備に日々追われる中で、今まで以上に映像を活用する授業が重要視され、変化していくことが想像できます。特に、被服関連における実験・実習などの授業は、動画を用いての説明が学生の理解の一助となることを願って、今回の講師の先生方から学ばせていただいたことを教材制作に活用していきたいと思います。半日という短い時間でのセミナーではありましたが、有意義で実りある時間を共有できたのではないのでしょうか。今、私たちの日常は様変わりし、当たり前であったことがそうではなくなりました。1日も早く以前のように、全ての授業やセミナーが対面で行えるように多くの人が願っています。

今回は、大変有意義なセミナーをありがとうございました。

令和3年度 被服構成学部会 公開研究例会報告

「アパレルにおけるSDGsの取り組み

― 一着の服を大切にする価値観を醸成するユニバーサルで持続可能なモノづくり ―

滋賀県立大学 森下 あおい

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の取り組みがさまざまな分野でなされている中、衣服設計の現場においてもこの課題にどのように向き合うかが一層、重要になっている。しかし教育現場では、企業での取り組みの現状を直に知る機会が得にくい。そこで令和3年度の研究例会は、テーマを「アパレルにおけるSDGsの取り組み―一着の服を大切にする価値観を醸成するユニバーサルで持続可能なモノづくり―」として、令和4年2月17日(木)13:00～16:30にオンライン方式によって開催された。

この研究例会は、工場見学、講演、パネルディスカッションの内容が行われ、約100名の申し込みがあり、7割が大学関係、1割が中高教員、2割が学生であった。工場見学は日本有数の織物産地、愛知県一宮市の葛利毛織工業株式会社にて事前に撮影され、その映像を基にヴァーチャルツアーとして、当日解説を聞きながら視聴した。

工場見学到先立ち、今回の事前撮影をしていただいた椋山女学園大学メディア情報学科の宮下十有先生の視聴方法の説明が行われた。工場の映像は通常のビデオ撮影だけでなく、3Dビデオ、3Dの静止画像などが撮影されており、実際の現場に訪れない中でも楽しんで空間を感じるように工夫されたものであった。従って、参加者自身が見たい場面を自由に選び工場内を立体的に見ることができた。

工場の解説は、葛利毛織工業株式会社の葛谷 聡氏により、図面に記載されている順番に行われた(図1)。経糸と緯糸が織られる反物ができていく様子や、丁寧な手作業で作業をされている様子までもがズームアップされて映し出された。それらは織機の音が響き稼働するなかで、まさに時間をタイムスリップしたような重厚な雰囲気にあふれていた。道具類や織りがあがった多彩な反物の特徴も詳しく説明していただき、生地のかさが手に取るかのように感じられた。

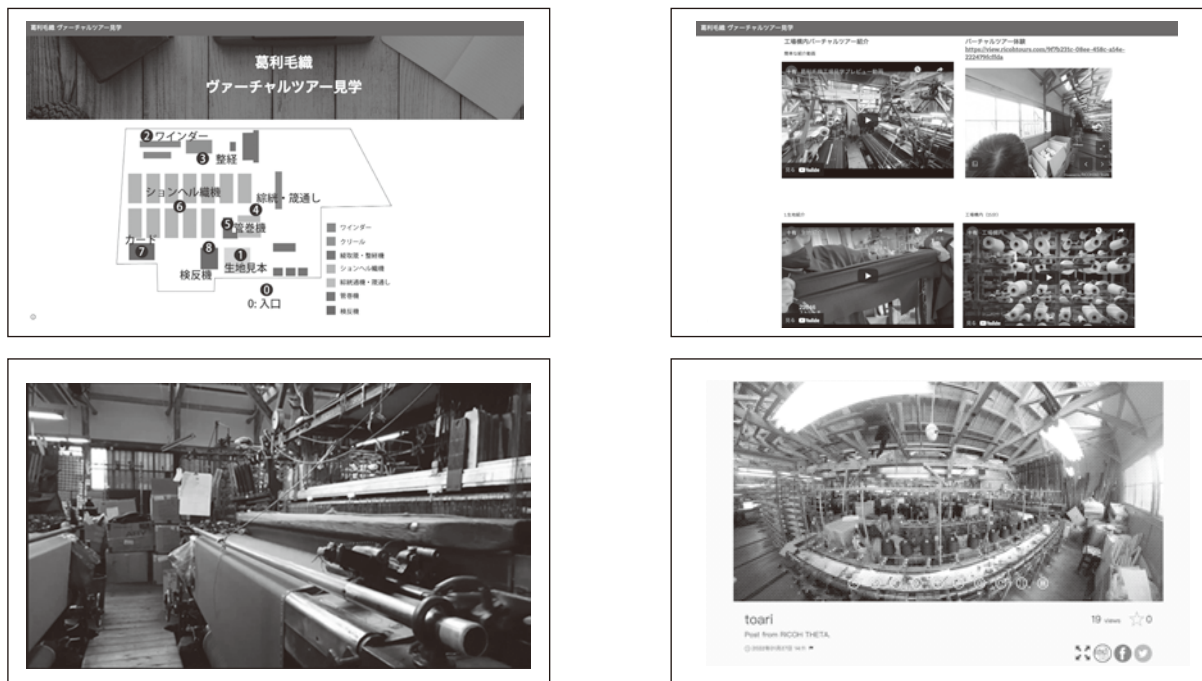


図1. ヴァーチャル工場見学の様子



織研新聞社
取締役 大阪支社長
藤浦 修一氏



葛利毛織工業株式会社
専務取締役
葛谷 聡氏



豊島株式会社
デザイン企画室 室長
渡辺 哲祥氏



眉山女学園大学
講師
滝澤 愛氏

図2. パネルディスカッションの様子

講演では、工場見学から引き続き、葛谷 聡氏が「創業109年の歩みと今後」についてをお話された。葛利毛織は、大正元年に創業されて以来伝統的な技術を継承しながら、多品種少量生産の体制を続けておられる。織機や部品にこだわり、独自の技術でスーツ地を中心に、風合い豊かな反物を海外のトップブランドにも素材提供されている。依頼があればまずはその声を聞き、そこから新たな提案を行われている。ぶれずに丁寧に、何よりも常に時代とともにモノづくりを進化させて来られた力強さを感じた。

次に、豊島株式会社のデザイン企画室室長の渡辺哲祥氏が、「3DCG技術の可能性と、我々商社のモノ作りの発達状況について」を題目にお話しされた。豊島織物株式会社は180年の歴史を持つ繊維の専門商社として、企画提案、品質管理、物流を担っておられる。早い時期から環境負荷の軽減に取り組み、今回は、素材づくりに関するサステナブルブランドの紹介から、3Dソフトやデータ・パターンを活用したヴァーチャル上の素材選定やデザイン、企画によるサンプルを軽減など、多数の事例を紹介していただいた。それらからは、グローバルな視点でのモノづくりの姿勢と、これからの持続可能な社会にとってのファッションの価値が伝えられた。

メディアの立場からは、織研新聞社取締役大阪支社長の藤浦修一氏が「繊維・ファッション業界のSDGsの現状と課題」について、「環境負荷低減」「人権問題」の2つの視点を中心に話された。織研新聞社によるアンケート調査結果などを示しながら、繊維およびファッション企業におけるSDGsに関する過去3年間の意識の推移や、経営方針や活動の在り方など、企業がSDGsの対応を増加させている変化を詳しく解説された。またサステナビリティを目指して2021年に立ち上がった団体など、近年の産業界の新しい動向が示された。

パネルディスカッションは、織研新聞社の藤浦氏の司会により、講師の葛利氏、渡辺氏とともに、本部会の滝澤氏が参加して行われた。今回のテーマについて、環境対応は数年で終わるものではなく、環境問題と経済を如何に両立させるかは大きな課題であるとされ、企業として如何に信念をもって継続して取り組むかが問われていること、環境対応は一企業で行えるものではなく、業界一丸となって課題を考えて行わないとできないことが多数あることが共通して語られた。

研究例会では、講師の各々のお立場から、一着の服を大切にする価値観について、今の社会背景とファッションにおける次の可能性を感じさせる新しい価値観について多くの示唆をいただいた。またそれらの内容からは、消費者自身がより真剣に、この問題を自分のこととして捉え、社会全体としてゴミの問題や生活意識が重要であることを考えさせられた。教育においては、持続可能な社会が当たり前であることを受け入れる社会の実現に向けて、生徒や学生と対話を重ねること、社会貢献を自然に行動する意識を持つ人を育てることの責任を感じさせられた。今回の研究例会は教育関係者を対象としたが、聞き手の立場をふまえた誠実なお話しをしていただいた講師の皆様に厚く御礼を申し上げる。

令和3年度 被服構成学部会 情報交換会報告 「アパレル 3D-CAD の現状と教育利用について」

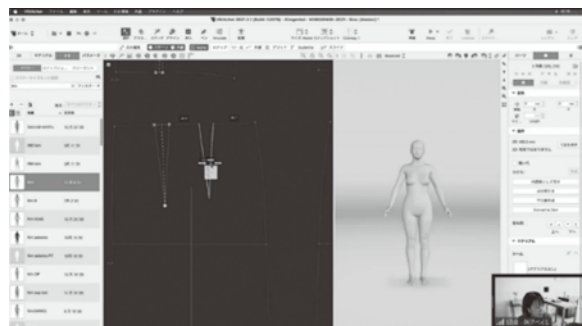
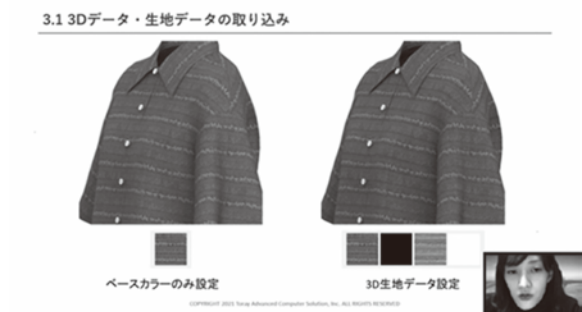
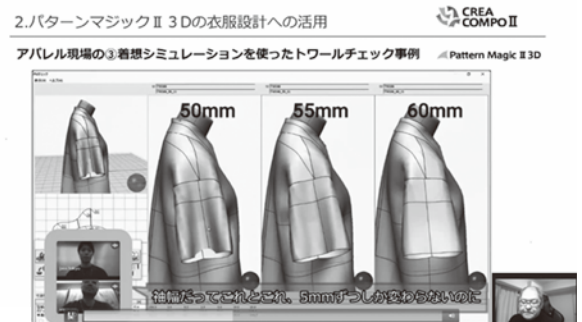
京都女子大学 渡邊 敬子

3D-CADへの注目が集まる中、大学教育にどのように取り入れていくのが課題となっている。そこで、本年度は夏期セミナーや研究例会とは別に情報交換会「アパレル3D-CADの現状と教育利用について」を2021年12月11日(土)16時から18時までの2時間、Zoomによるオンラインで開催した。3D-CADのメーカー1社とディーラー2社によるプレゼンテーションの後、質疑応答が行われた。

まず、株式会社東レACSからは久保忠博氏と眞鍋陶子氏からお話をいただいた。アパレルのすべての工程で3Dデジタル技術は無視できない技術の一つになっているが、デジタルネイティブ世代の人々は、デジタル技術の習得が早く、例えばスキャンデータを使った2Dボディ生成からボディへの展開線の設定、2D平面での展開、実寸出力までを1.5時間で習得できた。彼らが従来からのパターン教育と3Dデジタル技術の両方を習得することで、新しい価値を創造することが期待できる。また、東レの3Dはトワールを前提としているが、「Key shot」や「Substance 3D Collection」などを利用することで、リアルなテクスタイルマッピングのシミュレーションができることが紹介された。

株式会社ユカアンドアルファの笛木愛美氏からは、「CLO」のボディ作成、着せ付け、シミュレーションの操作とともに、教育現場での利用の事例などの説明があった。株式会社アベイル胡蝶氏からは「BROWZWEAR」の機能、特に2D-CADの機能が充実していて別の2D-CADを使用しなくても、同ソフトだけでパターン作成が完結すること、ボディの姿勢の調整が容易にできること、シミュレーションの精度の高さなどが紹介された。

参加者からは、「短時間で各社の3D-CADの特徴を知ることができたので、有意義でした。」「他の学校で導入例も見ることができて良かったです。」「企業向けのセミナーと違い、デジタルネイティブ世代の学生の様子が見えて新鮮でした。」といった感想が寄せられ、教育向けの情報交換会を開催した意義があったと考えられる。講師の皆様にご心から御礼を申し上げます。



被服製作の教育的意義

東京学芸大学大学院 山中 大子

I. 研究の背景

家庭科衣生活領域の製作実習（被服製作実習）は、小・中学校と特別支援学校、一部の高等学校で行われている。安価な既製服が安定して供給される現代では、家庭で被服製作を行う必要はほとんどなくなり、学校教育で被服製作実習を行うことへの疑問の声が家庭科教育の内外からあがっている。しかし、家庭科担当教師の多くは、子供が夢中になって製作に取り組む様子や、子供が自分の手で作品を完成させていく喜びと達成感を目の当たりにしている。

被服製作を通して、子供が何か大きな学びを得て人間的にもひとまわり大きく成長しているという実感は、共有されていてもほとんど検証されてはいない。被服製作実習に関する先行研究は、知識・技能の習得に関して、効果的に実習を行うための報告が多い。また被服の社会心理学的研究において、これまで被服着用と人間的成長の関連が様々に示されているが¹⁾、被服製作がいかに人間的成長に与するかはあまり注目されてこなかった。そこで、被服製作の3つの特徴に着目し被服製作の教育的意義に関する研究に取り組んでいる。

II. 研究の視点1：製作技能の習得

問題解決型の学習や、いわゆるアクティブ・ラーニングが現代日本の学校教育の主流となっている。正しい技能や手順の「型」を重視する被服製作実習は、子供の創造の自由を制限する、ともすると時代遅れな学習とみられがちである。しかし「型」の習得を経て「型破り」に至る道は、日本古来のものでありながら現代のイノベーション理論にも通じる、創造のプロセスである。授業でしっかりと製作技能の「型」を身につけてこそ、家庭実践において各自各様の「型破り」な創造的実践が期待できるのではないだろうか。

現代の子供の手縫い技能を調査したところ、授業中

に縫える量は多くなかった²⁾。技能がなければ成立しない被服製作実習においては、製作技能を重視した教育か、技能を軽減した現代的な学習かという二項対立を超えた、子供の成長に与する技能教育といった創造的な議論が必要である。

III. 研究の視点2：製作の喜びとフロー体験

楽しく夢中になる被服製作の体験そのものに教育的意義があるのではないかと考え、喜びの現象学として研究されてきたフロー体験と被服製作の関連についての実証研究を行った。フローとは、「一つの活動に深く没入しているので他の何ものも問題となくなる状態、その経験それ自体が非常に楽しい」³⁾状態である。フロー理論は、フローという体験を通して、より高度な能力や技能を持った人間へと成長していく過程を理論化した発達のモデルでもある。

公立中学校1年生144名の「刺し子」製作実習を、継続的な質問紙調査と作品観察によって検証した結果、フロー体験の特徴である時間経過感覚の変化と活動の楽しさが強く実感されており、多くの生徒にとって製作がフロー体験となっていることが示唆された。加えて製作中のフロー体験の程度と、製作物の縫い目数の多さ、製作後の自己評価と生活実践意欲の高さ、製作に意義を感じる傾向には関連が見られた⁴⁾。

同じ生徒の追跡調査⁵⁾では、製作中にフローを体験した生徒ほど、製作後に家庭で実際に針と糸を使用する傾向が見られた。また製作後の創造的態度には製作時のフロー体験との有意な相関が見られ、被服製作による人間的成長の一側面が示唆された。被服製作に汎用的な能力や態度を育成する可能性があるとすれば、被服製作は現代の子供にとっても重要であると言える。今後は、衣生活に限らない汎用的な能力・態度の育成と被服製作の関連について更に詳しく実証していく。

IV. 研究の視点3：学習者間コミュニケーション

製作中の教え合いやおしゃべりと作品の見せ合い等の学習者間コミュニケーションは、美術制作や技術科の製作ではあまり見られない、被服製作の特徴である。2020年度から感染症対策としてオンライン形式の授業が増えたが、大学生のオンライン被服製作実習に関する研究では、実践課題として学習者間コミュニケーションの不足が明らかになった⁶⁾。

大学生の被服製作実習を対象とした質問紙調査と作品観察では、学習者間コミュニケーションは製作への集中を妨げないことが示唆された⁷⁾。その後のインタビュー調査からは、コミュニケーションと集中が両輪となり創造性を支えている可能性が示された。コミュニケーションにより集中と解放を切り替えたり、話しながらも手元は製作に集中したりすることで、製作意欲を維持し、製作物と学びが発展する事例が見られた。また、製作の喜びと製作技能とコミュニケーションには関連が見られた。

近年、協働的な学びが重視されているが、教師が意図し計画したグループ学習だけでなく、被服製作に見られるような自然発生的でゆるやかな学習者間コミュニケーションにも、教育的意義があると考察される。

VI. 今後の研究課題

技能の習得、製作の喜び、コミュニケーション以外にも、手指の巧緻性、衣生活への関心、文化の伝承など、被服製作の教育的意義としては様々なことが言われている。それらは、科学的根拠のあるものもあれば、イメージで語られているものもある。被服製作の教育的意義をひとつひとつ検証し、それらのつながりを明らかにし、被服製作による人間的成長の全体像を示す必要がある。ジョン・デューイやルドルフ・シュタイナーなどが提起した教育実践を見ると、それぞれが異なる教育理論を持ちながらも、子供の人間的成長のために、被服製作という教育方法に行きついている。現代の子供の人間的成長のために、既製品に関する消費者教育だけではとりこぼしてしまう、被服製作ならではの学びを示していきたい。

これまで様々な被服製作実習実践が行われてきた

が、被服製作の教育的意義は十分に理論化されておらず、研究の余地がある。例えば、製作が不得意な子供について、子供の意識だけでなく学習環境と育成環境および身体的特徴も含めて分析する必要がある。また家庭科男女共修後30余年を経た現在でも見られる、被服製作における性差についても、文化的・生物学的背景を含めて多面的に解明する必要がある。このような研究課題に取り組み、被服製作が子供の全人的な成長の一翼をいかに担うかを明らかにしていくことで、家庭科教育の充実と被服学の発展に貢献していきたい。

以上のような被服製作と教育についての実証・実践研究と並行して、今後はケアとしての被服製作についての研究も行いたいと考えている。被災地や福祉施設などにおいて、被服製作や手仕事が経験則をもとに実践されている。しかし被服製作がセルフケアの一助となる根拠は、まだあまり検証されていない。

現代の被服製作労働は、貧しい地域や社会的に弱い立場にある人に担われることが多い。被服製作を完全に機械化することは難しく、被服は人の手によって作られる。被服製作が成長や希望へ至る道程を研究することによって、個々人の幸福に貢献する被服製作について、探求していきたいと考えている。

【引用文献】

- 1) 例えば、山中大子.(2006). 恋愛と被服行動に関する研究：被服による自己形成と他者との関わり．織消誌, 47(11), 640-645.
- 2) 山中大子, 寶達佑美, 川端博子.(2021). 「刺し子」学習における縫製技能実態と学習効果：製作物の経時的観察と質問紙調査による製作学習過程の分析．日本家庭科教育学会誌, 64(1), 23-33.
- 3) M. チクセントミハイ.(1996). フロー体験：喜びの現象学．世界思想社．
- 4) 山中大子.(2022). 製作学習における楽しさや喜びの教育的意義：「刺し子」学習におけるフロー体験．日本家庭科教育学会誌, 64(4), 278-287.
- 5) 山中大子, 寶達佑美, 川端博子. 製作学習後の生活実践に及ぼす学習時フロー体験の効果：「刺し子」学習の追跡調査．日本家庭科教育学会誌, 投稿中．
- 6) 山中大子, 川端博子.(2021). オンライン被服製作実習「刺し子」の実践課題：大学生へのインタビューと質問紙調査の分析．埼玉大学教育学部教育実践総合センター紀要, 19, 49-56.
- 7) 山中大子, 川端博子.(2022). オンライン被服製作実習におけるコミュニケーションの可能性．埼玉大学教育学部教育実践総合センター紀要, 20, 65-72.

第 21 回 全国中学生創造ものづくり教育フェア 報告

横浜国立大学 薩本 弥生

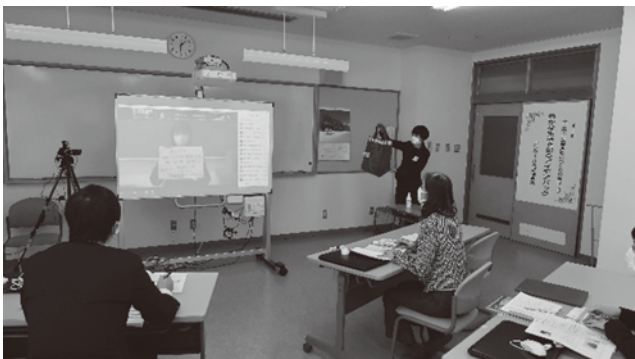
「全国中学生創造ものづくり教育フェア」は、中学生に競技会や作品展で、ものづくり学習の成果を発表し、競い合うことを通じて、ものづくりの楽しさや興味関心を高めることを意図し、ものづくり教育の充実と発展、社会への理解・啓発を図ることを趣旨として開催されている。

昨年度はコロナ禍のため開催中止となったが、今年度はオミクロン型の感染拡大が進んだ時期で気をもんだが遠隔開催で 2022 年 1 月 22 日に開催された。製作の様子を目の当たりにしながら審査する対面での審査はできなかったが遠隔でも開催できたのは周到な準備をしてくれた大会本部の技術・家庭科の先生方のおかげである。会場本部は部門毎に分散して「豊かな生活を作るアイディアバッグ」コンクールは長野県塩尻市で開催され、審査するにあたり実物を見る必要があるため塩尻市に出向いた。今年度から本格実施された新指導要領で中学校被服製作の際、「資源や環境に配慮する」ことが明記されことをうけて 2019 年から「衣服の再利用」を含めることが、製作の条件に加わった。予選で勝ち抜いてきた 9 名の参加者たちが参加し事前製作レポートに書かれた製作工程に基づき、製作したものを遠隔でプレゼンして工夫したポイントをアピールした。審査委員からの質問時間も設けられ、生徒たちは質問に対しても一生懸命答えていた。残念ながら全体表彰は開催せず、賞の発表は実施の次の日にウェブで行った。

参加者作品はいずれも自分や家族の生活をより豊かにするための思いがこもったものであった。例えば防災バッグの例では一般的な防災グッズを入れるのみではなく避難所で小さい弟が騒いで周りの人に迷惑をかけないようにミニカーで遊ぶことができるリュックや授乳期のお姉さんのためにミルクやおむつをいれるほか、濡れたものを入れておく小物用のポケット、足の不自由な祖父のため座った時に杖を止めておくテープなど、使う人のニーズをよくリサーチしてかゆいところに届く工夫が凝らされていた。衣服を再利用する時、衣服のデザイン、機能がバッグ創りにうまく活用されたもの、製作技術が高いレベルを保ったものが賞を得ていた。

AI やロボットが生活を便利に豊かにするといわれる一方でロボットに仕事を奪われる心配をする話も聞くがコンクールに向けて競い合う中で、ものづくりを通して育んでいる資質・能力は簡単に AI やロボットに置き換えられない人間らしい力であると感じた。早くコロナ禍が終息して次年度は対面で通常開催できることを祈る。

参加した生徒の受賞公開 URL サイト <http://www.ajgika.ne.jp/fair.html>



遠隔でプレゼンを審査する会場の様子



生徒たちが作成した作品の例

令和３年度 研究動向（修士論文テーマ・科学研究費補助金研究課題）

「令和３年度 科学研究費補助金 研究課題」

基盤研究（Ｂ）

「アパレルの国際市場拡大に向けたユニバーサルな個別対応衣服設計システムの構築」

2019～2022 年度，研究代表者：日本女子大学 大塚 美智子

基盤研究（Ｃ）

「3次元ディスタンスフィールドに基づく未来型アパレル造形システムの開発」

2019～2021 年度，研究代表者：和洋女子大学 山本 高美

「新規の蓄光布を用いて視認性及び持続性に優れ社会的弱者の安全に配慮した蓄光服の創製」

2019～2021 年度，研究代表者：甲南女子大学 小野寺 美和

「アパレル CAD システムを用いた風合い「しっとり」の触覚と視覚評価の関係」

2019～2021 年度，研究代表者：武庫川女子大学 末弘 由佳理

「熱中症予防支援システム構築のための人・着衣・環境系の評価」

2020～2022 年度，研究代表者：横浜国立大学 薩本 弥生

「3D バーチャルボディを生かした現代に求められる実物ボディ（人台）の開発」

2020～2022 年度，研究代表者：共立女子大学 丸田 直美

「乳がん患者の衣服選択を支援するスマートミラー開発のための基礎研究」

2021～2023 年度，研究代表者：文教大学 土肥 麻佐子

「シエラレオネの職業訓練生の技能教育教材開発を活用した衣生活教育力育成の構想」

2021～2023 年度，研究代表者：広島大学 村上 かおり

「個人のデザインアイデアをファッション市場に活かすデジタルドローイングの基礎研究」

2021～2024 年度，研究代表者：滋賀県立大学 森下 あおい

（注：継続研究と部会員の皆様への呼びかけに対してお申し出頂いた分を掲載しました。）

会 務 報 告

1. 令和3年度会務報告

1) 事業報告

① 総 会

日時：令和3年5月30日（日） 12:40～13:10

開催方法：オンライン形式

② 令和3年度夏期セミナー

「衣生活教育に活かすビデオコンテンツ」

日時：令和3年8月27日（金）

開催方法：オンライン形式（東京家政大学）

③ 全国中学生創造ものづくり教育フェアへの後援と

『豊かな生活を創るアイデアバッグ』コンクール審査

日時：令和4年1月22日（土）・23日（日）

場所：武蔵野総合体育館

『豊かな生活を創るアイデアバッグ』コンクール審査

会場：Zoomを使ったオンライン開催

（審査本部は塩尻市教育センター）

結果発表（全日中技家研webで公開、表彰式はなし）

④ 情報交換会

「アパレル 3D-CAD の現状と教育利用について」

日時：令和3年12月11日（土）

開催方法：オンライン形式

⑤ 研究例会

「アパレルにおける SDG s の取り組み ―一着の服を大切にすると価値観を醸成するユニバーサルで持続可能なモノづくり―」

日時：令和4年2月17日（木）

開催方法：オンライン形式

2) 庶務報告

① 第1回運営委員会

日時：令和3年5月30日（日）

開催方法：オンライン形式

(1) 令和2年度事業報告

(2) 令和2年度会計報告

(3) 令和2年度会計 監査報告

(4) 令和3年度業計画（案）について

(5) 令和3年度夏期セミナーについて

(6) 令和3年度予算（案）について

(7) 部会誌第43号編集案について

(8) その他

② 第2回運営委員会

日時：令和3年7月31日（土）

開催方法：オンライン形式

(1) 令和3年度夏期セミナーについて

(2) 情報共有会（仮題）について

(3) 令和3年度研究例会について

(4) 部会誌第43号編集（案）について

(5) 名簿管理方法の件

(6) 令和3年度ものづくり教育フェアについて

(7) その他

③ 第3回運営委員会

日時：令和3年9月11日（土）

開催方法：オンライン形式

(1) 夏期セミナーについて

(2) 今後オンライン企画開催時の体制確認

(3) 情報交換会の日時決定

(4) その他

④ 第4回運営委員会

日時：令和3年12月11日（土）

開催方法：オンライン形式

- (1) 令和3年度研究例会について
- (2) 運営委員役割分担について
- (3) その他

⑤ 第5回運営委員会

日時：令和4年2月17日(木)

開催方法：オンライン形式

- (1) 令和4年度の活動について
- (2) 活動助成の申請について
- (3) 中学生創造ものづくり教育フェアへの支援
と体制について
- (4) 各係の活動報告と引き継ぎ事項

3) 会計報告（次頁以降参照）

2. 令和4年度事業計画（案）

① 総会

日時：令和4年5月27日(金)～5月29日(日)

開催方法：オンライン形式（九州支部主催）

② 夏期セミナー

テーマ：未定

開催方法：オンライン形式

③ 全国中学生創造ものづくり教育フェアへの後援

日時：令和5年1月下旬

場所：未定

④ 研究例会

テーマ：未定

開催方法：オンライン形式

⑤ 部会誌44号の発行

⑥ ホームページの維持管理

⑦ その他

2020年度被服構成学部 収支計算書書

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	注 意	予算	決算	差異	備考
一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
①基本財産運用益	(本部のみ)				
特定資産運用益	大会基金となっている定期預金の利息			0	
入会金				0	
年会費		350,000	355,000	▲ 5,000	正75学生2過正5+1(不足分2000円)次正6
会誌購読料			0	0	
大会等参加費		500,000	0	500,000	
広告料			0	0	
刊行物売上				0	
著者負担金			0	0	
補助金	(名称と交付者を備考欄に記載願います。)		0	0	
一般寄付金	活動全般に使ってよい寄付金	100,000	108,000	▲ 8,000	布施谷節子先生4000円 データブック代
特別寄付金	使途を限定した寄付金		0	0	
雑収入	普通預金利息	10	12	▲ 2	8/17 6円 2/22 6円
②本部からの支部費	(支部のみ、選挙の為に通信費も含む)		0	0	
本部からの支部活動活性化サポート費	(支部のみ)		0	0	
本部からの活動助成費	活動助成金全額(税金も含む)	150,000	41,136	108,864	情報交換会11,136 研究例会30,000
経常収益計		1,100,010	504,148	595,862	
(2) 経常費用				0	
①事業費		963,900	198,874	765,026	
大会会場使用料			0	0	
大会講師謝金	講師への支払い総額(旅費交通費含む)		0	0	
大会旅費交通費	実行委員会メンバーなど講師以外への支払い		0	0	
大会消耗品	文具等だけではなく弁当代、懇親会費等も含む		0	0	
大会印刷費			0	0	
大会研究発表要旨集作成費			0	0	
大会通信運搬費			0	0	
大会臨時雇賃金			0	0	
総会費			0	0	
セミナー・講演会等会場使用料		40,000	0	40,000	
セミナー・講演会等講師謝金	講師への支払い総額(旅費交通費含む)	200,000	61,236	138,764	情報交換会 研究例会
セミナー・講演会等旅費交通費	実行委員会メンバーなど講師以外への支払い	50,000	480	49,520	研究例会(於京都女子大学)
セミナー・講演会等消耗品	文具等だけではなく弁当代、懇親会費等も含む	200,000	0	200,000	
セミナー・講演会等印刷費		10,000	0	10,000	
セミナー・講演会等研究発表要旨集作成費		65,000	0	65,000	
セミナー・講演会等通信運搬費		20,000	0	20,000	
セミナー・講演会等臨時雇賃金		30,000	0	30,000	
学会誌等関連印刷費		100,000	82,689	17,311	部会誌印刷・封筒・発送費
学会誌等関連通信費		5,000	0	5,000	
学会誌等関連原稿料・校閲料等			0	0	
学会誌等関連電子ジャーナル化費用			0	0	
研究補助費			0	0	
表彰費	奨励賞等	30,000	0	30,000	
関連学会等会費		10,000	0	10,000	
会議費	会議用のお菓子、お茶等	100,000	0	100,000	
広報費	ホームページ等	60,000	52,250	7,750	H P 初期費用・管理費
旅費交通費	大会、セミナー・講演会関連以外の事業に関する旅費交通費	30,000	734	29,266	会計引継 (於東京家政大学)
事務委託費			0	0	
支払負担金	振込手数料	3,000	1,485	1,515	
雑費	大会、セミナー・講演会関連以外の事業に関する雑費	10,900	0	10,900	
②管理費		25,000	12,551	12,449	
給料手当			0	0	
福利厚生費			0	0	
旅費交通費	(本部のみ)		0	0	
通信運搬費	大会、セミナー・講演会関連以外の通信運搬費	15,000	11,978	3,022	部会費等宛書口振替取料 レターパック、往復ハガキ、送料、切手代
備品費			0	0	
消耗品費	大会、セミナー・講演会関連以外の消耗品	5,000	573	4,427	ラベルシール(宛名用)
光熱水料費			0	0	
雑費	(本部のみ)		0	0	
租税公課	(法人税、消費税等本部のみ計上)		0	0	
地代	(本部のみ)		0	0	
印刷費	大会、セミナー・講演会関連以外の印刷費	5,000	0	5,000	
修繕費			0	0	
減価償却費	(本部のみ)		0	0	
リース料			0	0	
事務所管理費			0	0	
退職給与引当金繰入額	(本部のみ)		0	0	
③支部費			0	0	
支部活動活性化サポート費	(本部の支出を計上する欄)		0	0	
活動助成費			0	0	
経常費用計		988,900	211,425	777,475	
当期経常増減額		111,110	292,723	▲ 181,613	
2. 経常外増減の部				0	
(1) 経常外収益	(例えば不動産を売る等、通常の活動外での収入、支出なのでは該当なし)			0	
(2) 経常外費用				0	
当期経常外増減額				0	
当期一般正味財産増減額		111,110	292,723	▲ 181,613	
一般正味財産期首残高	(2019年度末の定期預金、普通預金、現金等の全ての金額)	2,047,200	2,047,200	0	
一般正味財産期末残高	(2020年度末の定期預金、普通預金、現金等の全ての金額)	2,158,310	2,339,923	▲ 181,613	

貸借対照表
(2021年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	2020年度	2019年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
手許現金	0	16,862	▲ 16,862
普通預金(三菱東京UFJ銀行国分寺支店)	1,363,973	1,271,930	92,043
通常預金	0		0
振替口座(ゆうちょ銀行〇一九)	975,950	758,408	217,542
流動資産合計	2,339,923	2,047,200	292,723
2. 固定資産			
部会大会基金引当預金			
定期預金(三菱東京UFJ銀行国分寺支店)			
通常貯金(ゆうちょ銀行)			
固定資産合計	0	0	0
資産合計	2,339,923	2,047,200	292,723
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払い金			
負債合計			
III 正味財産の部			
正味財産			
1. 指定正味財産			
2. 一般正味財産	2,339,923	2,047,200	292,723
負債及び正味財産合計	2,339,923	2,047,200	292,723

会計監査報告書

監 査 報 告 書

一般社団法人 日本家政学会
会 長 香西 みどり 殿

私ども監事は、2020年4月1日から2021年3月31日までの2020年度の部会の重要な会議に出席するほか、事業報告を聞き、重要な書類を閲覧し、主要な調査を行い、かつ当該事業年度に係る計算書類について監査を実施した結果、次のとおり報告します。

1. 事業報告は規程に従い、部会の状況を正しく示しているものと認めます。
2. 貸借対照表は2020年度期末現在の財政状態を正しく示していると認めます。
3. 正味財産増減計算書は2020年度の収支の状況を適正に表示していると認めます。
4. 役員の職務遂行に関する不正の行為または定款に違反する重大な事実は認められません。

以上

2021年4月8日

一般社団法人 日本家政学会
(代表理事) 部会

監事 大塚 美智子 (印)

監事 川端 博子 (印)

2021年度被服構成学部会 収支予算書

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	注 意	2021年度	2020年度	差異	備考
一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
①基本財産運用益	(本部のみ)				
特定資産運用益	大会基金となっている定期預金の利息			0	
入会金				0	
年会費		300,000	350,000	▲ 50,000	
会誌購読料				0	
大会等参加費		0	500,000	▲ 500,000	
広告料				0	
刊行物売上				0	
著者負担金				0	
補助金	(名称と交付者を備考欄に記載願います。)			0	
一般寄付金	活動全般に使ってよい寄付金	0	100,000	▲ 100,000	
特別寄付金	用途を限定した寄付金			0	
雑収入	普通預金利息	10	10	0	
②本部からの支部費	(支部のみ、選挙の為の通信費も含む)				
本部からの支部活動活性化サポート費	(支部のみ)				
本部からの活動助成費	活動助成金全額(税金も含む)	180,000	150,000	30,000	
経常収益計		480,010	1,100,010	▲ 620,000	
(2) 経常費用					
①事業費		661,000	963,900	▲ 302,900	
大会会場使用料				0	
大会講師謝金	講師への支払い総額(旅費交通費含む)			0	
大会旅費交通費	実行委員会メンバーなど講師以外への支払い			0	
大会消耗品	文具等だけではなく弁当代、懇親会費等も含む			0	
大会印刷費				0	
大会研究発表要旨集作成費				0	
大会通信運搬費				0	
大会臨時雇賃金				0	
総会費				0	
セミナー・講演会等会場使用料		5,000	40,000	▲ 35,000	
セミナー・講演会等講師謝金	講師への支払い総額(旅費交通費含む)	200,000	200,000	0	
セミナー・講演会等旅費交通費	実行委員会メンバーなど講師以外への支払い	5,000	50,000	▲ 45,000	
セミナー・講演会等消耗品	文具等だけではなく弁当代、懇親会費等も含む	5,000	200,000	▲ 195,000	
セミナー・講演会等印刷費		10,000	10,000	0	
セミナー・講演会等研究発表要旨集作成費		5,000	65,000	▲ 60,000	
セミナー・講演会等通信運搬費		5,000	20,000	▲ 15,000	
セミナー・講演会等臨時雇賃金		0	30,000	▲ 30,000	
学会誌等関連印刷費		85,000	100,000	▲ 15,000	
学会誌等関連通信費		0	5,000	▲ 5,000	
学会誌等関連原稿料・校閲料等				0	
学会誌等関連電子ジャーナル化費用				0	
研究補助費				0	
表彰費	奨励賞等	20,000	30,000	▲ 10,000	
関連学会等会費		30,000	10,000	20,000	
会議費	会議用のお菓子、お茶等	26,000	100,000	▲ 74,000	
広報費	ホームページ等	55,000	60,000	▲ 5,000	
旅費交通費	大会、セミナー・講演会関連以外の事業に関する旅費交通費	200,000	30,000	170,000	
事務委託費					
支払負担金	振込手数料	2,000	3,000	▲ 1,000	
雑費	大会、セミナー・講演会関連以外の事業に関する雑費	8,000	10,900	▲ 2,900	
②管理費		23,000	25,000	▲ 2,000	
給料手当					
福利厚生費					
旅費交通費	(本部のみ)				
通信運搬費	大会、セミナー・講演会関連以外の通信運搬費	15,000	15,000	0	
備品費				0	
消耗品費	大会、セミナー・講演会関連以外の消耗品	3,000	5,000	▲ 2,000	
光熱水料費					
雑費	(本部のみ)				
租税公課	(法人税、消費税等本部のみ計上)				
地代	(本部のみ)				
印刷費	大会、セミナー・講演会関連以外の印刷費	5,000	5,000	0	
修繕費					
減価償却費	(本部のみ)				
リース料					
事務所管理費					
退職給与引当金繰入額	(本部のみ)				
③支部費					
支部活動活性化サポート費	(本部の支出を計上する欄)				
活動助成費					
経常費用計		684,000	988,900	▲ 304,900	
当期経常増減額		▲ 203,990	111,110	▲ 315,100	
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益	(例えば不動産を売る等、通常の活動外での収入、支出なのでは該当なし)				
(2) 経常外費用					
当期経常外増減額					
当期一般正味財産増減額		▲ 203,990	111,110	▲ 315,100	
一般正味財産期首残高	(2020年度末の定期預金、普通預金、現金等の全ての金額)	2,339,923	2,047,200	292,723	
一般正味財産期末残高	(2021年度末の定期預金、普通預金、現金等の全ての金額)	2,135,933	2,158,310	▲ 22,377	

お 知 ら せ

1. 部会費について

令和4年度の被服構成学部会費（正会員：4000円、学生会員：2500円、永年会員2000円）は、5月中に下記郵便払込み口座にご送金くださいますようお願い申し上げます。また、過年度未納の方には別紙にてお知らせいたしましたので、併せてご送金ください。

郵便払い込み口座 00160-2-322300 日本家政学会被服構成学部会

なお、会費に関するお問い合わせは、下記をお願いいたします。

〒470-0196 愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57

名古屋学芸大学 メディア造形学部 水嶋 丸美 宛

TEL:0561-75-7111(代表), 0561-75-1846(直通)

FAX:0561-75-2922

E-mail:marumi.m@nuas.ac.jp

2. 入退会、住所変更等について

お届け、お問合せは、下記をお願いいたします。

〒451-0051 愛知県名古屋市守山区大森 2-1723

金城学院大学 生活環境学部 伊藤 海織 宛

TEL:052-798-0180

FAX:052-798-0370

E-mail:itoh@kinjo-u.ac.jp

※ 入会申込書および変更届、退会届の書式は最終ページをご参照下さい。

※ なお、退会届につきましては（一社）日本家政学会の退会手続きとは別処理になっていますので、部会への手続きも併せてしていただきますようお願いいたします。

3. E-mail アドレスについて

E-mail アドレスの登録にご協力いただきありがとうございます。アドレスをお持ちの方で、まだご登録いただいていない方は、令和4年度会費納入の際に振り込み用紙の通信欄にご記入いただければ幸いです。

また、アドレスの変更がある場合には、なるべくすみやかにお知らせくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

一般社団法人日本家政学会被服構成学部会規約

- 第1条（名 称） 本会は、一般社団法人日本家政学会被服構成学部会と称する。
- 第2条（目 的） 本会は、会員相互の研究に関する連絡及び協力をはかり、被服構成学に関する教育・研究を促進することを目的とする。
- 第3条（事 業） 本会は、前述の目的を達成するため次の事業を行う。
- 1 総会を開催する。
 - 2 被服構成学に関する研究・討議・講演などを行う。
 - 3 部会誌を発行する。
 - 4 その他の必要な事業を行う。
- 第4条（会 員） 本会の会員は、次のとおりとする。
- 1 正会員 被服構成学及びこれに関係する分野を研究する原則として一般社団法人日本家政学会会員で、本会の目的に賛同して入会した個人。
 - 2 学生会員 本会の目的に賛同して入会した学生。
 - 3 名誉会員 元部会長、または、特に本会の発展に寄与した会員で、70 歳を越えた場合に、運営委員会の議決をもって推薦された者。
 - 4 永年会員 一般社団法人日本家政学会会員の永年会員。
- 第5条（会 費） 会員は年会費を納入する。
- 1 年会費は次のとおりとする。

正会員	4,000 円
学生会員	2,500 円
永年会員	2,000 円
 - 2 名誉会員は会費を納めることを要しない。
- 第6条（入 会） 本会に入会を希望する者は、所定の入会申込書を部会長に提出し、運営委員会の承認を得るものとする。
- 第7条（退 会） 会員が退会しようとするときは、その旨を部会長に届け出るものとする。この場合、既納の会費は返却しない。
また、継続して2年間会費を滞納した場合は、原則として退会したものとみなす。
- 第8条（役 員） 本会に次の役員をおく。
- 部会長 1名
副部会長 若干名
運営委員 若干名
監 事 2名
- 第9条（役員の選任） 役員の選任は、次のとおりとする。
- 1 部会長及び監事は、運営委員会がこれを推薦して、総会で選任する。部会長の選任および解任は、理事会の承認を受けるものとする。
 - 2 副部会長及び運営委員は、部会長がこれを推薦し、会員に報告する。

第 10 条（役員の任期） 1 役員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

2 役員の再任については、申し合わせを別に定める。

第 11 条（役員の職務） 役員の職務は次のとおりとする。

1 部会長は本会を代表して会務を統轄し、事業計画および予算、事業報告および決算を毎事業年度、理事会に報告する。

2 副部会長は部会長を補佐し、必要な場合には部会長の職務を代行する。

3 運営委員会は本会の業務を運営する。

4 監事は本会の会計監査を行う。

第 12 条（役員の解任） 役員が次の各号の一に該当するときは、解任を運営委員会で動議し、総会で決議する。

1 心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められるとき。

2 職務上の義務の違反、その他役員たるにふさわしくない行為があると認められたとき。

第 13 条（会 計） 本会の会計は次のとおりとする。

1 経費は会費、その他をもってまかなう。

2 会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月末日に終了する。

第 14 条（規約の改廃） 本規約の改廃は総会において承認を受け、理事会に報告する。

以上

附 則

1 施行に関する内規は別に定めることができる。

2 この会則の施行は昭和 54 年 10 月 8 日からとする。

3 この会則の一部改正の施行は昭和 59 年 8 月 3 日からとする。

4 この会則の一部改正の施行は昭和 63 年 8 月 1 日からとする。

5 社団法人日本家政学会部会規定に基づき、平成 15 年 8 月 27 日から被服構成学部会会則を廃止し、社団法人日本家政学会被服構成学部会規約とする。

6 この規約の施行は平成 15 年 8 月 27 日からとする。

7 社団法人日本家政学会部会規定に基づき、平成 18 年 8 月 22 日から被服構成学部会規約を廃止し、社団法人日本家政学会被服構成学部会会則とする。

8 この会則の施行は平成 18 年 8 月 22 日からとする。

9 社団法人日本家政学会部会運営規程および部会運営規程細則に基づき、平成 22 年 5 月 29 日から被服構成学部会会則を廃止し、社団法人日本家政学会被服構成学部会規約とする。

10 この規約の一部改正の施行は平成 22 年 5 月 29 日からとする。

11 この規約の一部改正の施行は平成 24 年 5 月 12 日からとする。

12 この規約の一部改正の施行は平成 28 年 3 月 14 日からとする。

13 この規約の一部改正の施行は平成 28 年 5 月 28 日からとする。

14 この規約の一部改正の施行は平成 30 年 2 月 27 日からとする。

15 この規約の一部改正の施行は令和 2 年 3 月 6 日からとする。

一般社団法人日本家政学会被服構成学部会申し合わせ

- 1 運営委員会 運営委員会は、部会長、副部会長、運営委員、監事で構成し、その中に庶務、会計、企画、広報、編集担当をおく。
- 2 役員の任期 (1) 規約第9条に従って部会長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、継続して3期はつとめられない。
(2) 運営委員の任期はできるだけ2期4年間とし、その交代は半数ずつ交互に行うことが望ましい。期間をあけての再任は、これを妨げない。
- 3 運営委員の選任 運営委員の選任にあたっては、できるだけ部会員が在住する広範な地区から選ぶように配慮する。
- 4 事務局幹事 (1) 必要に応じて事務局幹事をおくことができる。
(2) 事務局幹事は若干名とし、部会長がこれを指名する。
(3) 事務局幹事は役員会に同席することができるが、議決権は持たない。
- 5 事務局 事務局は、原則として部会長のもとにおく。
- 6 申し合わせの改廃 運営委員会の議を経て、総会で承認し、理事会に報告する。

附則

- 1 この申し合わせは、平成15年8月27日から施行する。
- 2 この申し合わせの一部改正施行は、平成18年8月22日からとする。
- 3 この申し合わせの一部改正施行は、平成24年5月12日からとする。

令和2・3年度役員

部会長 森下 あおい 滋賀県立大学
副部会長 渡部 旬子 文化学園大学(非)
田中 早苗 東京家政大学
村上 かおり 広島大学

運営委員

(庶務) 中村 邦子 大妻女子大学
短期大学部
石垣 理子 昭和女子大学
土肥 麻佐子 文教大学

(会計) 井口 彰子 文化学園大学
大塚 有里 東京家政大学
水嶋 丸美 名古屋学芸大学

(企画) 薩本 弥生 横浜国立大学
渡邊 敬子 京都女子大学
滝澤 愛 椋山女学園大学

(広報) 丸田 直美 共立女子大学
柴田 優子 和洋女子大学
武本 歩未 日本女子大学

(編集) 末弘 由佳理 武庫川女子大学
十一 玲子 神戸女子大学
小野寺 美和 甲南女子大学

(監事) 大塚 美智子 日本女子大学
川端 博子 埼玉大学

事務局 〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500
滋賀県立大学 人間文化学部
TEL : 0749-28-8425
E-mail : morishita@shc.usp.ac.jp

令和4・5年度役員

部会長 田中 早苗 東京家政大学
副部会長 村上 かおり 広島大学
丸田 直美 共立女子大学
石垣 理子 昭和女子大学

運営委員

(庶務) 伊藤 海織 金城学院大学
柴田 優子 和洋女子大学
中村 邦子 大妻女子大学
短期大学部

(会計) 水嶋 丸美 名古屋学芸大学
鈴木 由子 東京家政大学
工藤 寧子 柴田学園大学

(企画) 滝澤 愛 椋山女学園大学
角田 千枝 相模女子大学
砂長谷 由香 文化学園大学

(広報) 武本 歩未 日本女子大学
高橋 美登梨 目白大学(非)

(編集) 十一 玲子 神戸女子大学
小野寺 美和 甲南女子大学
伊藤 瑞香 和洋女子大学

(監事) 川端 博子 埼玉大学
森下 あおい 滋賀県立大学

事務局 〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
東京家政大学 家政学部 服飾美術学科
TEL : 03-3961-9002
E-mail : stanaka@tokyo-kasei.ac.jp

(一社)日本家政学会 被服構成学部会入会申込書および変更届, 退会届

入会 変更 退会 (いずれかを○で囲む)	申込年月日 年 月 日		受付年月日 年 月 日		
	ローマ字				
	氏名	氏	名		
	西暦 19 年生		性別	男 ・ 女 (どちらかを○で囲む)	
家政学会所属支部					
自宅住所	〒 (-)				
	TEL			FAX	
	E-mail				
勤務先 ・ 職名 および所在地	勤務先			職名	
	〒 (-)				
	TEL			FAX	
	E-mail				
専門分野	<研究分野> <担当授業科目>				
※最終学歴					
※学位					
部会誌送付先	自宅 ・ 勤務先 (どちらかを○で囲む)				

太線枠内は必ず記入してください。E-mailも必ずお書きください。※印は差支えない範囲で結構です。

退会の場合は、今後、連絡する必要がある場合に備えて、連絡がつく自宅か勤務先の情報をご記入ください。

お届けは「お知らせ」ページの宛先まで、添付メールまたは郵送にてご提出ください。

部会費は「お知らせ」ページの口座にご送金ください。

* 個人情報保護には十分に注意をいたします。

なお、書式を被服構成学部会ホームページからダウンロードしてお使いいただくこともできます。

URL: <http://h-kohsei.com>

編集後記

昨年度に引き続き、2021 年度も新型コロナの感染拡大により学会活動が制限され、オンライン開催となりました。先生方におかれましても、ご苦労が多かったのではないかと思います。部会誌の編集にご協力ならびにご支援をいただき、無事発行する運びとなりましたことに感謝申し上げます。先生方による映像を活用した教育のお話を伺い参考になる点が多々ありました。これらの機会が会員の皆様方の一助になれば幸いです。今後とも、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

(十一)

コロナ禍で、未だに終息の時期が不透明なお忙しい中、第 43 号部会誌の編集スケジュールに合わせて、ご執筆・ご協力いただいた先生方に深く感謝申し上げます。オンラインに変更せざるをえない状況が続いておりますが、教員の負担を増やさずに、より良い教材作りや資料作成を可能にする方法、また実際の撮影風景など、大変貴重な情報をご提供いただきありがとうございます。部会員の皆様の情報源として本誌を活用して頂ければ幸いです。最後になりますが、被服構成学の分野がますます発展することを期待いたします。

(小野寺)

令和4年3月31日発行

発行：(一社) 日本家政学会 被服構成学部会

印刷：株式会社アディス

TEL：078-265-6336

